

おり ほかに各種ガラスやタイルなどの研究も着々と進んでいます。

シラスは崩れるとか 水がないとか言っている時代は過ぎました。今ではシラスをどのように開発し利用してゆくかが問題になっています。その基礎となるのは地味なシラスの地質調査というわけです。

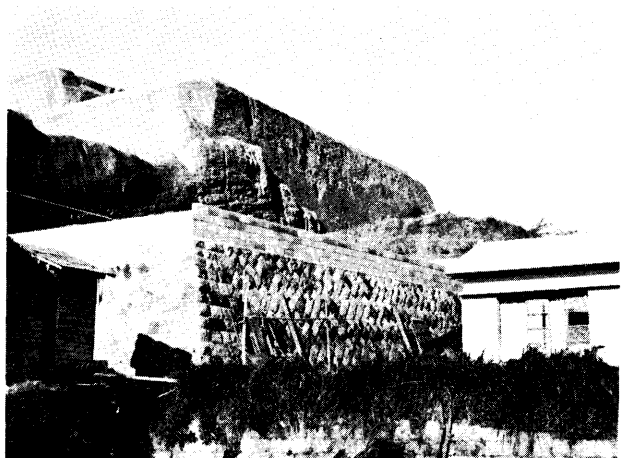
(筆者は地質部)

おもな参考文献

荒牧 重雄(1958) : Pyroclastic flow の分類 火山 ser. 2 vol. 1 no. 1
 太田 良平(1964) : シラス研究序説 地球科学 no. 72
 太田 良平(1965) : シラスの工業的利用 地質ニュース no. 125
 一色 直記ほか3名(1965) : 放射性炭素による ¹⁴C 年代測定 地質ニュース no. 133
 太田 良平・竹崎 徳男(1966) : シラスに関する諸問題 地質雑誌 vol. 75 no. 1



第24図 シラス崩壊の注意 (東市尾町芝居段)



第25図 シラス丘陵地の宅地造成 (鹿児島市紫原)

切手を集める方々のために

(2)

堀内 恵彦

切手の入手方法(その1)

いろいろありますが 最も簡単な方法は 郵便物に貼られてきた切手を 集めることです。自分のところへきたものばかりでなく 知人 勤め先などにも頼んでおくこともよいでしょう。

切手をはがすときは 切手のまわりを十分に余裕を残して台紙ごと切り取り 水の中に浸し 糊がとけて自然にはがれたら 水をよく吸う紙の上に裏返しにのせて自然にかわかします。切手によっては刷色が落ちたり 台紙に赤インキなどがあると 色が水に移り他の切手などを染めることがありますから 注意して下さい。台紙を切ることでできないときは 吸収紙に水を十分にしませて 切

手の上にのせておくと 自然にはがれます。

前回は ちょっとふれましたが ときには 手紙などからはがしては かえって価値のさがる場合もありますから注意しましょう。

つぎの方法は 他の同好者と交換をすることです。これは 友人などの間でよく行なわれる方法ですが しばらくするとお互いに交換する品がなくなります。しかし 外国の同好者との交換ができれば もっとお互いに豊富に交換ができることになります。この相手をみつけるには 勤め先に連絡のある外国の商社へ紹介を頼むとか あるいは 知人が外国にいたとかの関係があれば結構ですが それがなくとも 切手交換のための会が世界各地にありますからそれらを利用することがよいでしょう。しかしそれらもよくわからない人は「郵便友の会」を利用されることを おすすめします。郵便友の会については 近くの郵便局の窓口でおたずね下さい。

その際に注意すべきことがらは 自分の年令・職業・収集年数・現在の収集量・希望する切手の種類・通信用語などについて正確に記入し選択する相手も あまり自分とかけはなれた人を選ばないことで とくに外国人の場合には こちらからの条件・相手の条件をよく確かめ 交換を始めたなら あらかじめお互いに変更を確認しない限り 条件を守って文通すべきです。あまりはじめから ひんばんに 多くの切手を交換しますと 途中で交換する切手が不足して困ることがあります。外国人の場合にはただ切手を交換するのではなく 四枚ブロックの使用済とかよい消印に限るとか いろいろ注文されることが多いですから 十分に注意して下さい。

また 交換切手の計算は 普通のものは枚数計算で 新切手の未使用は額面交換 とくに高額なものは額面が時価で というように考えればよいでしょう。

今回は 切手を購入する方法 すなわち お金を払って 切手を手に入れる方法について述べましょう。

日本郵便

